

第3次健康いるま21計画（原案）に対して寄せられた意見等の概要と市の考え方

入間市では、平成30年11月16日（金）から平成30年12月17日（月）までの期間で「第3次健康いるま21計画（原案）」に関して「パブリックコメント」を実施しました。その結果、1人の方から5件のご意見等が寄せられました。寄せられた意見等の概要と、それに対する市の考え方は、次の通りです。

No.	箇所	意見等の概要	市の考え方（対応）
1	全体	過去、今後と多くの統計や計画など、細かで適切な状況評価の調査内容に感心した。	ご意見をありがとうございます。
2	第2章～5章 P4～41 1 栄養・食生活～ 6 生活習慣予防	運動することが健康増進には大切と思っているが、どのような運動をしたらよいかわからない人が多いと思われる。 今後は、それぞれ年齢・体調に合った運動の仕方を市民に広く伝えられるような策が考えられることを望む。	ご意見を踏まえ、個々の対象に合った運動方法を伝えられるような事業を検討して参ります。
3	第2章～5章 P4～41 1 栄養・食生活～ 6 生活習慣予防	トレーニング室のような多種の高度な健康機器が設置されている施設でなくてよいので、気軽に足を運べ、指導者や監視員の配置された施設が将来増えるとありがたい。	現在、指導員のいる施設の整備は考えておりませんが、地域に運動指導士が出向いて気軽に参加できる運動教室の開催等に対応して参ります。
4	第6章 P54～67 市民健康実態調査結果	調査対象は無作為抽出とのことだが、回答については働き盛りの世代の回答率が低く、市民全体の平均とは多少の相違があると思われる。 調査結果よりも、健康対策について知識が無かったり、心身の健康に目を向けてほしい人が多いと思われることを踏まえ、今後の健康増進の取り組みを考えていくと良いと思う。	ご意見を踏まえ、健康増進事業に取り組んで参ります。

5	<p>第5章 P 4 2～4 4 7 地域づくり</p>	<p>調査結果のとおり、近所と関わるきっかけも少なくなり、地域間でのつながりが希薄になってきている。特に若い世代は健康事情も良く、自分のことは自分でできるという感覚もあるため、助け合いの必要性に気づいている人が少ないのかもしれない。</p> <p>また、少子化ということもあり、近所と関わるきっかけも少なくなり、地域づくりの意識を持っていても、実際に、地域活動をするのに気が引けてしまう場合もあるのである。</p> <p>住民の集まる場、地域の人が行きやすく、行きたいと思える場がたくさんあることにより、人々は知り合いも増え、打ち解け、コミュニケーションがうまれ、情報の共有ができ、ささえあうことのできるまちづくりができると思われる。</p> <p>○ボランティアを増やすことは、理解者を増やすことにもなり、ボランティアと住民とのつながりにより相乗効果が期待されるので、良い取り組みである。</p> <p>さらに、公民館や健康福祉センター、地域の公会堂等が、もっと活用できたら、活動内容も広がり、住民も参加しやすくなると思う。</p> <p>○最近子ども会が激減し、自治会離れも増えており今後は懸念されるが、自治会に加入する必要性が分からないからだと思う。</p> <p>自治会の働きや会員になることの必要性（災害時に役立つ等）、自治会費の会計を分かりやすく示す等、地</p>	<p>ご意見ありがとうございます。ご指摘のように健康とは無縁と思われる、自治会活動や地域での趣味のサークル活動が健康の保持増進につながっていると考えます。公共施設に限らず、地域住民の身近な場所で、市民、ボランティア、市職員が一緒になり健康な地域づくりに取り組んでいきたいと思えます。</p>
---	--------------------------------------	--	---

		<p>区住民に理解を求める必要もあると思う。</p> <p>○直接健康にかかわる関係機関だけでなく、市全体の取り組みと考え、市民が相談しやすい雰囲気場をつくり、職員一人一人の親身な対応も、住民の心を開くきっかけになる。それがいずれ『健康』に関連していくのではないだろうか。</p> <p>さまざまな場で、人と接すること、話をすることに壁がなくなれば、精神的にも楽になり、近所づきあいが活発化し、情報も入ってくる。</p> <p>人が人を頼り、助け合えるまちになることにより、健康を考え、健康で生き生きと暮らせる「元気な人間」になると考える。</p>	
--	--	--	--